

「第2回阿見町道の駅整備事業検証委員会」議事概要

審議会等の名称	第2回阿見町道の駅整備事業検証委員会
開催日時	令和元年5月23日(木) 午後2時30分から午後4時20分
開催場所	阿見町役場 4階 役場第1委員会室
議 題	(1) 場所について
公開・非公開の別	非公開
議事結果	<p>【出席者】 (委員) 流通経済大学 名誉教授 香川 眞 茨城大学農学部 准教授 牧山 正男 橋本会計事務所 橋本 英之 (一社)茨城県建築士会 稲敷支部長 新田 孝司 (一財)茨城県建設技術公社 常務理事 藤田 幹雄 元(株)JTB 茨城南支店営業担当課長 宮寄 眞二 阿見町金融団(常陽銀行阿見支店長) 国井 武</p> <p>(町：事務局) 湯原町長公室長 政策秘書課：佐藤課長、糸賀係長、塚原主事</p> <p>(オブザーバー) (株)オリエンタルコンサルタンツ 萬代氏</p> <p>【会議の概要】 1. 開会 2. 委員長あいさつ 3. 議題 (1) 場所について 【資料1】 【別添1】 【別添2】により事務局から説明があり、質疑、意見が交わされた。 主な内容は以下のとおり。 ○：委員 ◇：事務局</p> <p><候補地選定の視点について> ○ビジネスとして考えた場合は、投資したものは回収するのが当たり前である。投資額を何年で回収するかが全く出ていないため、選定は不适当であると考えている。 ○構造によって償却年数が決まってくる。減価償却の期間内で、利益により元が取れるかどうかという議論はなかったのか。 ○道の駅によっては利益で減価償却を賄っている例もあるが、赤字であることが多い。 ◇基本構想の策定段階では、ビジネス的な感覚の中で収益を上げていかないといけないという意見が大半であった。基本計画においてもそれをないがしろにしているわけではない。 ○アウトレットから全く業種の違う道の駅に呼ぶことを考えた場合、行先としては、アウトレットと道の駅ではどちらかに分かれる。アウトレッ</p>

	<p>トに近づければ人がたくさん来るのかと言うとそうではない。場所的に見れば4つの中でベストだと思う。</p> <p>○阿見町の財政では、ランニングコストすら回収できない事業がいくつかある。そういう状況下にあるため、経済的側面の比重を高めて考えないといけない。</p> <p>○道の駅そのものは収益を上げるものではない。ランニングコストの負担については地域活性化との兼ね合いで天秤にかけるものである。減価償却費を回収すべきという視点で道の駅を考えると厳しい面もある。</p> <p>○阿見吉原については、ETC2.0は当時なかったと思うが、今後普及すると圏央道からの途中下車ということも考えられる。阿見東にはプラスになる可能性もある。</p> <p>○どのように呼び込むかが重要であるため、場所については今の場所でも十分であると考えている。</p> <p>○いろいろデータを調べて今の場所は決まっている。ここにいかにして人を集められるかという議論が大事なのではないか。</p> <p>○道路利用者の休憩ニーズという点では、今の場所は悪くない。どこまで初期費用をかけて作るのかが議論になるとの認識である。</p> <p>< 4候補地に決まった経緯について ></p> <p>○4か所に決まった経緯はどうだったのかは気になる。予科練平和記念館のすぐそばに作ることもあり得たのではないか。</p> <p>◇当初は役場として3候補地（大室、吉原、追原）を挙げて検討し、その後、平成23年度の「準備検討委員会」の中で南平台が追加され、4候補地になった。</p> <p>◇町の観光の目玉である予科練平和記念館とアウトレットからアクセスできるルートの中で用地確保できる場所を検討しようという考え方であった。予科練平和記念館の隣接地については、市街化区域と市街化調整区域の狭間になっておりすでに公園ができていることもあって、なかなか難しいだろうという判断になった。</p> <p>○交通量の多い場所に作るのか、道の駅を作ってから地域を育てていくのか。道の駅自体を育てていくこともあり得たと思う。</p> <p>◇必ずしも交通量だけで決めたわけではない。直轄国道などに比べると十分な交通量ではないが、普段使いも視野に入れて集客を図ってほしいという考え方である。</p> <p>○「準備検討委員会」で出てきた候補地を受けて、「整備推進会議」の提言書になっているということによいか。</p> <p>◇平成23年度の「準備検討委員会」で4つの候補地が示されて、翌24年度の「整備推進会議」の中で、4候補地について評価をしている。</p> <p>○平成24年度の「整備推進会議」から外部メンバーも入った会議を開催し、それ以前は庁内の会議なのか。</p> <p>◇平成23年度は現場の人（直売所・飲食店等）たちの意見を中心に、考え方を吸い上げましょうということで実施した。それを基に、平成24年度に「整備推進会議」を開催して基本構想を作る。委員を変えて2か年で基本構想を作ったということである。</p> <p>○立地場所に関して、「準備検討委員会」の第2回、第3回でどのような多様な議論ができたのかがポイントであると考えている。</p> <p>○第1回の見学会で訪問した4か所はどこか。それによって影響された可能性もある。</p> <p>◇確認して、後日回答する。</p> <p>○見学場所によって最初に方向性をリードしてしまった可能性もある。</p> <p>○場所の選定が良かったのかどうかについては、どういう目的で、どういう道の駅を作ろうとしたのかが前提になる。平成23年度の「準備検討</p>
--	---

	<p>委員会」の資料がないとそのあたりの検証が難しい。それがなく、4か所ありきだったのではないかと言われかねない。</p> <p>○今日の段階では、4候補地から1つに絞る段階で、費用については配慮されていなかったという指摘はできる。</p> <p><検証の進め方について></p> <p>○検証委員会では4つの検証課題があるため、それぞれについてその時点でどうだったかを積み重ねていく。これからどうするかについても、いくつかのモデルを出しながら、そのモデルと計画地との比較の中で、委員会としての提言はする考えである。</p> <p>○基本的には、進むのか引き返すのかという検証を行うものと理解している。仮に引き返す場合には、次に考えられることも付帯条項として提言できるとよいと思う。数年経ったおかげで新しい技術、新しい施設も出てきており、それはプラスに考えた方がよい。</p> <p>◇本委員会の要項第1条で「平成29年度までの事業の検証を行うために設置する」とされている。これまでの計画について議論をするという趣旨を改めてご理解いただきたい。</p> <p>◇委員会の総意で検証していただくということになっているので、委員会の中で検証の仕方を決めていただければよい。</p> <p>○道の駅をやる場合には、投資したものが回収でき、採算も合って、町の活性化につながるという結論に導けるようにしたい。</p> <p>○中断しているものをやめるにせよ続けるにせよ、それぞれのケースについて比較をしないと検証にはならないと思う。</p> <p><次回の議題について></p> <p>○事務局案では「整備時期について」となるが、まだその議論は早いように思う。</p> <p>○やはり経営の話に踏み込まないと、場所の議論も進まないと思う。</p> <p>○次回は費用を議論するということでよいか。</p> <p>◇運営については、指定管理者の事業計画を前提として進めていけるかを考えてきた。選定された指定管理者の提案として町にいくら還元できるかは提示可能である。</p> <p>○売上以外の目に見えないような宣伝効果をどのように見積もるかは難しいが、道の駅ができることによって何がプラスになるかという点で、事例も集めた方がよい。</p> <p>◇本日の宿題としては、次回の委員会で示すものは「準備検討委員会」見学会における4か所の見学先、「準備検討委員会」の場所の部分議事録、実施設計までを終えた段階の事業費、募集をかける時の想定運営収支、ファーマーズフォレストが提案した収支、道の駅ができたことによる交通量の変化等の事例があれば収集する。</p> <p>○応募した方々の独自の収支フレームも確認したい。</p> <p>○事例は、規模が小さいものと中ぐらいのものをお願いしたい。</p> <p>□最後に、次の議題は場所の問題を含め、事業費と運営についてということを確認した。</p> <p>4. その他 特に意見はなかった。</p> <p>5. 閉会</p> <p style="text-align: right;">以 上</p>
--	--